

京都大学構内遺跡調査研究年報

1987年度

京都大学埋蔵文化財研究センター

序

この年報は1987年度に医学部構内と農学部構内の遺跡でおこなった発掘調査成果の報告と、それに関連する研究をまとめたものである。

第Ⅰ部第2章は、医学部構内での調査の報告である。ここで検出した密教法具の鋳型は、これまで調査してきた梵鐘鋳造遺構やほかの鋳造関連遺物とあわせて、古代から中世にかけて鴨東の地でおこなわれていた鋳物生産を考える貴重な資料である。第3章は、北部構内の調査の報告である。縄文晩期の土器の良好な資料を検出し、近年、研究の進んでいるこの時期の土器編年に関する新たな資料として、その位置づけをおこなうことができた。稲作をはじめとした、新たな文化要素の流入が想定される直前段階の資料と考えられ、文化の変容のありさまを考える重要な資料となろう。第Ⅱ部は、本研究センターの研究テーマのひとつとしている中世の鋳物生産について、わが国の各地の資料を素材に、中国との技術交流を視野に入れつつ考察したものである。

これまで発掘調査によって出土した膨大な資料は蓄積される一方であったが、さいわい昨年5月本学の歴史的建造物である尊攘堂の保存修復の工事がおこなわれ、埋蔵文化財研究センター資料室として利用することになった。5月31日には、西島安則総長はじめ関係者に資料室の展示を披露した。過去十数年間の調査によって得た資料を展示し、京都大学構内の歴史的変遷を解説し、学内、学外に公開し、歴史的建造物の保存とともにその有効な活用をめざしている。

各調査、資料室の開設にあたっては学内、学外の多くの関係者の方々に御指導、御協力、御助言をいただいた。とりわけ、本学の施設部、学生部、放射性同位元素総合センター、農学部の関係者各位に対し、あらためて謝意を表したい。今後とも変わらない御指導、御協力のほどをお願いする次第である。

1990年3月

京都大学埋蔵文化財研究センター長

西川幸治

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で1987年4月1日から1988年3月31日までに発掘、整理作業を終了した埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学埋蔵文化財研究センターにおける研究成果をまとめたものである。
- 2 国土座標にしたがって一辺50mの方形の地区割りをして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、国土座標第Ⅵ座標系 ($x = -108,000$ $y = -20,000$) が ($X = 2,000$ $Y = 2,000$) となる京都大学構内座標によって表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所の方式にしたがって、井戸：SE、土坑：SKのように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通して表示を統一した。
Ⅰ：京都大学北部構内BH35区の試掘調査
Ⅱ：京都大学医学部構内AL20区の発掘調査
Ⅲ：京都大学北部構内BD33区の発掘調査
(例ⅠⅠ：京都大学北部構内BH35区出土遺物1番)
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4、遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のものは、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 第Ⅰ部の参考文献は、本文中に、〔著者名 発表年〕の形式で表わし、第Ⅰ部の末に一括した。第Ⅱ部については、章末の注に一括して記載した。
- 8 遺構・遺物の実測と製図は、清水芳裕、五十川伸矢、浜崎一志、宮本一夫、難波洋三、千葉豊、森下章司、家根祥多、上野京子、谷口由利子、西川恵美子がおこなった。遺物の撮影は、森下章司が担当した。
- 9 本文の執筆者名は各章の初めに記した。
- 10 編集は西川幸治の指導のもとに森下章司が担当し、清水芳裕、五十川伸矢、浜崎一志、千葉豊、辰巳ゆかり、西川恵美子が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 1987年度

目 次

第 I 部 1987年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第 1 章 1987年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の概要	1
2 調査の成果	1
3 北部構内 B H35区の試掘調査	2
第 2 章 京都大学医学部構内 A L 20区の発掘調査	5
1 調査の経過	5
2 層 位	5
3 遺 構	6
4 遺 物	7
5 小 結	12
第 3 章 京都大学北部構内 B D33区の発掘調査	15
1 調査の経過と遺跡の概要	15
2 層 位	16
3 遺 構	17
4 遺 物	19
5 S K 5 出土縄文土器の編年的位置づけ	32
6 小 結	34
参 考 文 献	36
京都大学構内遺跡調査要項	38

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要Ⅷ

中世前半の大型鑄鉄鑄物	47
1 はじめに	47
2 大型鑄鉄鑄物資料	48
3 資料の年代観	52
4 大型鑄鉄鑄物の製作技術	54
5 大型鑄鉄鑄物の鑄造技術と鑄物師	57
6 中国の鑄造技術	60

図 版	巻末
-----------	----

図 版 目 次

- 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 2 京都大学医学部構内A L20区
 - 1 江戸後期の遺構 (西から)
 - 2 江戸前期の土取り穴 (西から)
- 3 京都大学医学部構内A L20区
土取り穴出土遺物(1)
- 4 京都大学医学部構内A L20区
土取り穴出土遺物(2)
- 5 京都大学医学部構内A L20区
土取り穴出土遺物(3)
- 6 京都大学北部構内B D33区
 - 1 江戸後期の遺構 (北から)
 - 2 縄文晩期の遺構 (西から)
- 7 京都大学北部構内B D33区
 - 1 土坑SK5 (西から)
 - 2 土坑SK3 (西から)
 - 3 土坑SK4 (西から)
- 8 京都大学北部構内B D33区
 - 1 縄文前期・中期・後期の土器
 - 2 縄文晩期の土器
- 9 京都大学北部構内B D33区
縄文晩期の土器
- 10 京都大学北部構内B D33区
縄文晩期・弥生前期の土器
- 11 京都大学北部構内B D33区
 - 1 縄文土器細部
 - 2 石 器
- 12 京都大学北部構内B D33区
灰褐色土・黄色砂混り暗褐色土・茶褐色土出土遺物

挿 図 目 次

1987年度構内遺跡調査の概要		
図1 TP1・TP2の層位……………2	図16 縄文前期・中期の土器……………20	
図2 試掘調査位置……………3	図17 縄文後期の土器……………21	
図3 TP4・TP3・ TP1の層位……………3	図18 SK5出土縄文土器(1)……………23	
図4 TP1黒色土・ TP3表土出土遺物……………4	図19 SK5出土縄文土器(2)……………24	
医学部構内AL20区の発掘調査		
図5 調査区北壁と東壁の層位……………6	図20 SK5出土縄文土器(3)……………24	
図6 江戸前期の遺構……………7	図21 SK4出土の縄文土器……………25	
図7 土取り穴出土遺物(1)……………8	図22 縄文晩期の土器(1)……………26	
図8 土取り穴出土遺物(2)……………9	図23 縄文晩期の土器(2)・ 弥生前期の土器……………27	
図9 土取り穴出土の鋳型と取瓶, 完成品想定図……………11	図24 縄文晩期の土器(3)……………28	
図10 福勝院の九輪阿弥陀堂……………13	図25 縄文晩期の土器(4)……………29	
北部構内BD33区の発掘調査		
図11 調査区と周辺 おもな調査地点……………15	図26 石鏃・磨製石斧・ 凹石・磨石……………29	
図12 調査区東壁の層位……………16	図27 灰褐色砂質土・黄色砂混り 暗褐色土・茶褐色土出土遺物……………31	
図13 縄文晩期の遺構……………17	中世前半の大型鋳鉄鋳物	
図14 土坑SK5・SK6……………18	図28 中世前半の大型鋳鉄鋳物(1)……………49	
図15 土坑SK3・SK4……………19	図29 中世前半の大型鋳鉄鋳物(2)……………50	
	図30 中世前半の大型鋳鉄鋳物(3)……………51	
	図31 儀式用羽釜の変遷……………53	
	図32 大型鋳鉄鋳物の鋳造模式図……………56	
	図33 少林寺鉄鍋の模式図……………60	

表 目 次

表1 深鉢外面の調整手法……………32	表4 京都大学構内遺跡の おもな調査……………42
表2 凸帯の分類……………32	表5 中国鐘の鋳型分割……………61
表3 SK5の器種構成……………32	

第 I 部 1987年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第 1 章 1987年度京都大学構内遺跡調査の概要

第 2 章 京都大学医学部構内 A L20区の発掘調査

第 3 章 京都大学北部構内 B D33区の発掘調査

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要 Ⅷ

中世前半の大型鉄鑄物

五十川 伸矢

1990年3月30日発行

京都大学構内遺跡調査研究年報

1987年度

編 集 京都大学埋蔵文化財研究センター
発 行 京都市左京区吉田本町
印 刷 山代印刷株式会社
製 本 京都市上京区寺之内通小川西入

正 誤 表

京都大学構内遺跡調査研究年報 1987年度

頁	行	誤	正
vi	27	器種構成	器種組成
3	14	白砂	白色砂
19	9	図16~27	図16~26
30	28	黄色砂混り茶褐色土	黄色砂混り暗褐色土
40	9	藤原元治	藤原元始